

〔源平盛衰記 二十八〕源氏追討使事

六人ノ大將軍、各一色ニ裝束シテ打出給ヘリ。○中近江ノ湖ヲ隔テ東西ヨリ下ル、栗津原、勢多ノ橋、野路ノ宿、野洲ノ河原、鏡山ニ打向駒ヲ早ムル人モアリ、山田矢走ノ渡シ、志那今濱ヲ浦傳ヒ、船ニ竿サス者モアリ。

〔梅松論 下〕去程に正月〇建武十三日より三ヶ日の間、山田矢橋の渡舟にて、宮村○後上并北畠禪門、出羽陸奥兩國の勢ども、雲霞の如く東坂本に參著しければ、頓て大宮の彼岸所を皇居として、三塔の衆徒残らず隨奉る。

〔太平記 三十一〕八幡合戰事附官軍夜討事

宰相中將殿義詮○足利ハ略申三月〇文和十一年元年立テ、三萬餘騎、先伊祇寸三大寺ニシテ手ヲ分ツ、或ハ漫々タル湖上ニ、山田矢早瀬ノ渡舟ノ棹サス人モアリ、或ハ渺々タル沙頭ニ、堅田高島ヲ經テ駒ニ鞭ウツ勢モアリ。

〔謡曲〕竹生島

ワキ詞いかに是成舟に便船申さうなふ、シテ詞是は山田矢橋の渡し船にてもなし、御覽候へ海士の釣舟にて候程に、便船は叶ひ候まじ。

〔信長公記 十一〕天正六年五月廿七日、信長、安土大水之様子可被成御覽、爲御下松本より矢橋へ御舟にめされ、御小姓衆計にて御渡海、寅六月十日、信長御上洛、又矢橋より御舟にて松本へ御上り、

〔夫木和歌抄 渡二十六〕永久四年百首船やばせの渡にほてるややばせの渡する舟をいくたびみつ、せたのはしもり

〔夫木和歌抄三十三〕十題三十首旅